

.....編集後記.....

◆シューメーカー・レビー彗星が木星の表面に残した傷跡は本年の最も強烈な出来事の1つであった。本当に千年に1回というほど頻りに衝突するのだろうか。本号に矢内氏から寄稿いただいた隕石の中にも月からはじきだされた月隕石があるという。やはり衝突の破片が宇宙を漂ってきたものだろうか。猛暑の一夜、遠く宇宙の彼方に夢を馳せた真夏の夜の出来事だった。シリーズ3回目になった隕石の話を楽しみ口絵写真とともに寄稿いただいた矢内氏に感謝します。

◆国連のESCAPは「工業原料鉱物の開発のためのワークショップ」を、一昨年は日本で、昨年は中国で開催した。これらの会議で講演した日本人参加者に関連テーマでの執筆をお願いしたところ、大津賀・芝崎両氏から合計3編をご寄稿いただいた。本号ではまずこの分野だけを小特集の形で掲載した。最近の産業界の動向と新技術開発の課題が大変分かりやすくレビューされている。セラミック関係の読者だけでなく、普段あまり馴染みのない地質関係者にも読んで頂けると期待している。なお、上記ワークショップにおける地質・探査関連のテーマについてもすでに投稿していただいているので、後日、別

の形で特集する予定である。ご寄稿頂いた皆様と本企画や執筆依頼などに尽力くださったワークショップ主催者の富樫幸雄氏に厚くお礼申し上げる。

◆「花崗岩の街：アバディーン」は3月号に続き石原氏が訪英の折りに立ち寄られたスコットランドの風景だ。石畳の中に、世界経済の流れを反映した街の産業史が記録されているようだ。表紙の美しい写真を含めご寄稿ありがとうございました。

◆玉生氏の「世界の深部地熱開発の事例..」は本年5月号の「特集：新規花崗岩..」に掲載予定の原稿だったが、紙面が足りず本号にまわさせていただいた。5月号と併せてご覧いただきたい。

◆お盆を前に、筑波の研究本館裏手の広場では連日コンクリートのパイルの打込み作業が続いている。本年度中に完成予定の「地圏情報センター棟」の建設がいよいよ始まった。地質調査所としては1980年に筑波に移転して以来、初めての施設拡充である。いずれ三階建ての輪郭が明らかになる頃を見計らい、建物の紹介や、地球科学の情報化に関連した特集を本誌でも企画してみたい。読者のご意見をお待ちしている。

小玉喜三郎・佐藤興平 記

地質ニュース編集委員会

委員長：小玉喜三郎

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

野田徹郎・吉井守正・豊遙秋・佐藤岱生

顧問：林暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋博

事務局：総務部業務課広報係（島山浩之・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第481号 1994年9月号 定価 ¥ 770 千実費
1994年9月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林久雄
発行所	株式会社実業公報社 東京都千代田区九段北1の7の8 〒102
	Tel. (03)3265-0951 (代表)
	振替口座 東京 00110-6-32466
	麹町局私書箱第21号
印刷	小宮山印刷工業株式会社

©1994 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。